



153.

## 稲波 弘次

(当時12歳)

イタリア空軍博物館所蔵



1920年に12歳だった稲波少年は、1936年のベルリンオリンピック馬術競技に出場する陸軍将校となりました。その様子は1938年公開の、レニ・リーフェンシュタール監督の記録映画、「オリンピア・美の祭典」の中で見ることができます。



### ご子息の稲波弘彦氏

父は幼年学校、士官学校、陸大のコースをたどった生粋の陸軍将校でした。戦後はソ連に逗留、解放後に向かったのが神戸乗馬倶楽部でした。戦後、馬術を教えていました。1932年バロン西（西行一）の「ウラヌス号」がその馬場で訓練され、ロサンゼルス五輪の会場に向かいました。4年後のベルリン五輪には当時騎兵中尉の父も出場しました。大障害飛越競技と総合馬術です。しかしドイツ軍は国威高揚のため必勝が筋書きで、底が見えない水濠に細

工がしてあったそうです。幼かった私は半信半疑で、明治生まれの父が「我輩は」と語る話をじっと聞きました。後にオリンピック記録映画「美の祭典」を観て、父の話の信憑性を知りました。戦後の混沌とした世相の中で、戦勝国の価値観に染まれぬ父が日本の再生を考えて行き着いたのが、日本人の食生活改善でした。消化吸収のよい食生活から体力を向上させようと食材や機械の研究を重ね、おかげで僕らはオートミールなど不味いものばかり食べさせられました(笑)。混沌から抜け出し、信じるべき唯一のものは健康。父の日本再生への思いと活動が、私に医師となる資質を植え付けたのだと言えます。

医師である稲波弘彦氏は、100年前の父親の幼少期の絵が外国から見つかるという思いがけない発見に驚かれ、この感動を他の子孫の方々とも分かち合いたいと考え、作者に関する情報収集のためのサイト [kinencho1920.com](http://kinencho1920.com) を立ち上げられました。